

研究計画書

南1階病棟 ○山田士郎

黒田百合子 宮内美幸

<p>研究テーマ： 認知症患者の安楽な入浴を目指して ～入浴介助時の介助抵抗の要因を考えた取り組み～</p>
<p>研究の動機： 当認知症治療病棟のスタッフは入院中の認知症患者（以下：患者）に清潔保持とともに少しでも快適な時間を過ごしてほしいとの思いを持ち入浴介助を行っている。しかし、患者の介助抵抗が生じることでスタッフも疲弊するとともに患者も不快な時間を過ごすことになり、入浴介助への葛藤が生じている。患者は自らの思いを適切に言語化することが困難なため、介助抵抗という形で表出していると考えられる。 今回、当認知症治療病棟の入浴介助において介助抵抗を生じさせる要因を明らかにし、対策を行うことで患者と職員が互いに安楽な入浴時間を過ごす一助となったため報告する。</p>
<p>研究の目的： 当認知症治療病棟において患者の介助抵抗を生じさせる要因を明らかにし、今後の入浴介助方法の課題を得ることで患者・スタッフ共に安楽な入浴を過ごす一助にする。</p>
<p>研究方法： 1. 研究デザイン：質的記述的研究 2. 研究期間：倫理委員会承認日～2025年6月 3. 研究対象者：NH0北陸病院認知症治療病棟に勤務する看護師16名 4. データ収集方法：対象者に認知症治療病棟での入浴介助時に介助抵抗が生じる要因を自由記載のアンケートで調査した。 5. データの分析方法：フィッシュボーン分析</p>
<p>倫理的配慮： 研究者の所属する機関の倫理審査委員会の承認を得た上で、所属長の承諾を得て実施した。本報告をまとめるにあたりアンケートを実施したNH0北陸病院認知症治療病棟で働く看護師16名に書面と口頭で本研究の目的と内容、プライバシー及び個人情報の保護、学会発表について説明を行い、同意を得た。得られたデータは個人を特定できないようにし、本研究以外では使用しない。病棟スタッフに対しては、業務などに支障をきたさないよう配慮する。データは看護部長室が管理する。</p>

利益相反：

本研究発表に関連して開示すべき利益相反関係にある企業等はない。

タイムスケジュール：

2025年認知症ケア学会に演題登録予定

予測される研究の限界：

当認知症治療病棟での実践報告であり、一般化は困難と考える。

文献リスト：

引用文献

- 1) 本田美和子他著：ユマニチュード入門 医学書院 2015 第1版第5刷 139頁
- 2) 長岡さとみ, 大淵律子：介護老人保健施設における看護師の認知症高齢者ケア場面のとらえ方とケア行動の特徴 老年看護学 第17巻2号 55頁 2013

参考文献

- 1) 公益社団法人日本看護協会編：認知症ケアガイドブック 照林社 2016
- 2) 本田美和子他著：ユマニチュード入門 医学書院 2015 第1版第5刷
- 3) 鈴木みずえ他編：パーソン・センタードな視点から進める急性期病院で治療を受ける認知症高齢者のケアー入院時から退院後の地域連携まで 日本看護協会出版会 2016
- 4) 中島紀恵子編：認知症の人びとの看護 第3版 医歯薬出版株式会社 2017
- 5) 服部英幸編：BPSD 初期対応ガイドライン 改訂版 (株) ライフ・サイエンス 2019
- 6) 石川県立こころの病院編：現場で学ぶ・現場で活かせる 認知症ケアアイデアノート 照林社 2023